



芸術鑑賞会 6月24日 飛騨市文化交流センター

今年度は飛騨市より援助していただき、東京演劇集団風による『TOUCH～孤独から愛へ ORPHANS』を地域の皆様と一緒に鑑賞しました。

鑑賞の前に、日頃の感謝を込めて地域の皆様へ拍手を送らせていただきました。会場にお越しの皆様も大きな拍手を返してくださいました。



生で見るプロの演劇は迫力があり、深く心に残る素晴らしい経験となりました。飛騨市、東京演劇集団風の皆様ありがとうございました。



生徒会を中心とした多くの生徒が、芸術鑑賞会を運営しました。



6月28日、理数科3年生が取り組んできた課題研究の発表会を行いました。

各班の研究タイトルは、

数学①班『プログラミングの可能性』

数学②班『ソーラークッカーを作ろう』

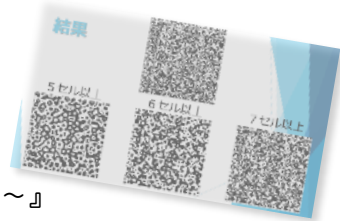
物理班『カーリングの謎に迫る』

化学班『錆をして、錆を守らしむ～錆に錆を守らせる～』

生物班『驚異の再生能力』

でした。とても興味深い内容で、1・2年生からも多くの質問が出ました。

発表会には東北大学ニュートリノ科学研究センター准教授古賀真之先生をお招きし、御助言をいただきました。古賀先生ありがとうございました。



地域課題解決型キャリア教育「吉高地域キラメキプロジェクト」

YCK PROJECT REPORT

地域をフィールドに多様な人とのつながりが価値ある学びをつくる

第3号

7月
2022
発行

YCKプロジェクト 課外活動プログラム 「①ひまわりプロジェクト～種まき～」を実施しました！

「ひまわりプロジェクト～種まき～」

- ◆日時：令和4年6月7日(火) 12:00～12:40
- ◆場所：吉城高校花壇
- ◆参加者：1年生(25名)、2年生(45名)
3年生(7名)



このプログラムの目的は、2011年の東日本大震災から学んだ教訓を風化させることなく受け継ぐことで、地域の防災意識を高めることです。本校が毎年、「ひまわり」を育てることには、次のような被災地の取組と共通した理念があります。

震災の風化対策として2012年から行っている、宮城県南三陸町で咲いた「ヒマワリの種」を全国に広げながら震災を忘れないようにしよう！というプロジェクトです。

今までに、小学校などの教育機関や企業様、ご家庭などにお届けさせて頂いています！

南三陸町復興応援プロジェクト HP より



本校写真部は震災発生直後から、宮城県立高校の写真部顧問や同県南三陸町の写真家と交流し、被災地で暮らす人たちの様子を伝える「壁新聞」を作成して、校内に掲示しました。

しかし、壁新聞への関心は次第に集まらなくなっていました。このことに危機感を抱いた部員たちは、より持続可能な形で被災地に心を寄せる活動ができないかと話し合いました。

そして、今から9年前、大津波の被害を生き抜いたひまわりの種を南三陸町の写真家である佐藤信一さんから譲り受け、学校の花壇で育てました。これがこのプロジェクトの始まりです。

多くのひまわりが咲くことは、遠い飛騨から被災地の人々に寄り添う気持ちを表しています。

昨年度からは、「ひまわりプロジェクト」を課外活動プログラムの一つに位置づけ、写真部だけでなく、より多くの生徒が取り組むようになりました。



このプログラムに参加した生徒達は、「ひまわりにはどんな思いが込められているのか」を考え、「被災地との絆を強くしたい」「災害の痛みを風化させない」「ひまわりを地域の方に配ることで、防災意識の広めたい」など、この活動の意義を幅広く捉え、やりがいをもって参加していました。

生徒のワークシートから、「防災 自分でできること」を抜粋しました。**被災地との絆を強いものにして防災意識を高める！**

1年	2年	3年
・家族で避難場所を確認する。 ・防災バッグの中身を定期的に確認する。 ・命やその安全を守るために、防災用のライトや非常食を点検する。 ・地域の防災訓練に毎年参加し、避難所の位置などを常に確認する。	・非常時の持ち出し品を玄関先などに準備する。 1人1日3ℓの水 調理可能な3日分の食品 コップや割りばしなど ・避難所には食料・毛布・水などが、地域防災拠点には衛生用品・間仕切り・発電機・燃料などが配置されていることを伝える。	・非常時の家族との連絡手段を前もって確認しておく。 ・地域の防災マップで避難場所などを確認する。 ・地域では、防災訓練をはじめ、防災時の通信設備・大規模停電・医療救護体制など、非常時の体制整備を行っていることを伝える。

ご意見・ご感想などは、吉城高校・キャリア推進部までお問い合わせください。

☎ 0577-73-4555

